

学都屋台食談

第2回

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観：人生観を、石川県に拠点を構える企業経営者や大学学長らが講師となり、講師の経験をもとに学生と語る「学都屋台食談」が11月10日から12月2日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催されました。2006年から今年で12年目を迎え、講師と県内の大学に通う学生が和やかに繰り広げた食談で、講師が学生に熱く語られたメッセージを紹介します。第2回は半谷静雄・金城大学学長。



金城大学

到来する人生100年の時代を「どう生きるか」

日本では今、長寿化が進んでいます。厚生労働省は今年9月のわが国の100歳以上のお年寄りは6万7000人と発表しました。医療技術の進歩により、今後100歳以上の人口の増加が予測され、まだ若い皆さんは、この先80年も生きることを前提に「人生の生き方」を考えていく必要があります。

そのためには、何よりもまず心身の健康を維持していくことが大切です。では、健康維持の上で一番重要なポイントは何だと考えますか。「幸福感」「周囲の支え」「心の若さ」「生きがい」「趣味」。そんな答えが皆さんから挙がりました。いろいろな考え方はありますが、私は「生きがい」が最も大切だと思っています。では、「生きがい」は、どうすれば得られるのでしょうか。

「他者のために」が生きがいや元気の源に

今は大学の学長ですが、私は以前、外科の臨床医をしていました。そこで、こんなおばあさんに出会ったことがあります。

おばあさんは心臓の手術をして、退院後、介護施設に入所しました。そうしたケースの場合、私の経験では高齢者は寝たきりになってしまふことが多く、ご自分の足で再び病院の外来に来られるということはまずありませんでした。ところが、そのおばあさんは数カ月後、元気な姿で外来を訪れ、私を驚かせました。どうしてだと思いますか？

おばあさんは介護施設で6人部屋に入ったのですが、入室後から部屋の他の5人の方のお世話をされ始めたそうです。「人のためになること」がおばあさんの生きがい、元気の源となっていたのです。

これも臨床の現場での私の経験ですが、不思議なことに、前向きで明るい性格の人ほど、病気からの回復が早いと私は感じています。

前向きで明るいという特質は、生まれながらだったり、育った環境による影響だった

りもしますが、このおばあさんのように、人の役に立つという気持ちで、生きがいを通して元気さや前向きな姿勢につながったのではないのでしょうか。

ウインストン・チャーチルはこう言っています。「我々は得ることで生計を立て、与えることで生きがいをつくる」と。

人間のつくった真理は永遠の真理ではない

また、皆さんがこの先の長い人生を歩む上でもう一つ助言したいことがあります。それは、常識にとらわれないということです。

医学の世界を含め、世の中には常識と呼ばれることがたくさんあります。でも、その中の多くは決して永遠の真理ではありません。

1995年にアメリカ心臓協会が、「心筋梗塞の予防に女性ホルモンが有効」と発表しました。ところが2002年に「女性ホルモンの投与は心筋梗塞のリスクを高める」とまったく逆の報告を行いました。なんと方針が180度も変わってしまったのです。このような常識と思われることが新たな発見や検証によって、非常識になっていくケースは決して少なくありません。

皆さんがいずれ就く仕事などで、人間のつくった真理、例えば各分野の大御所がつくったような真理や常識を頭から信じることは危険です。いろいろな経験を通して、そうしたことを見通せる賢い人間になっていただけたらと思います。

人のために働いて得られる「生きがい」こそ人生の糧!



講師
金城大学
学長

半谷 静雄氏

はんや・しずお

1946年東京都生まれ。横浜市立大学医学部卒。東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所研究員、北里大学医学部講師、姫路獨協大学医療保健学部教授、宝塚医療大学副学長などを経て、2014年4月から現職。医学博士。